

保存会だより

発行 高山人形・
徳高祭保存会
御船

小林新会長へバトンタッチ

五月二十六日三十一年度総会が開催され新役員が選出承認され、勝野正道さん(等々力町区)より小林千尋新会長(徳高町区)へと会長職が引き継がれた。(任期二年)

副会長 大倉清市(等々力)

同 大内善司(等々力町区)

同 窪田征二(徳高区)

「会長就任あいさつ」

本年の総会において第五代会長に選任され就任致しました。平成十一年の当会設立以来四人の会長様(故清澤久・高橋歳秀・平林佳樹・勝野正道)はじめ後継者育成に携わる小平・牛流・保尊教室の皆様、氏子四地区の役員及び氏子総代の皆様、神社関係者のご尽力により会員数は千二百名を超えております。

会での活動は後継者育成教室や各地区において次世代を担う子供達に徳高人形を知ってもらうため講座を開き、徳高南小学校には毎年人形飾り物を展示し伝統文化への関心を深めてもらう活動を行っております。

また、一年間の教室における研修成果を発表する場として徳高神社境内で徳高文化祭に合わせて教室ごとの飾り物場面展示を行っております。本年は十回目の境内展示となりより

多くの皆様方にご覧頂くため、社務所西側より場所を北神苑へ移し展示を致しました。これを励みに教室の受講者も一層の研鑽を積んでおります。

今後も徳高人形や御船祭の貴重な伝統文化を末永く後世に伝えるため努力してまいりますので多くの皆様方の益々の応援をお願い致します。

華麗なる絵巻物八尾曳山展示館と 新湊さつとときと市場の旅

人形飾り物の知識を深める目的で名所旧跡を訪ねる第十六回研修旅行が七月十八日三十一名の参加にて行われた。本年は富山県八尾の曳山展示館や新湊にて万葉歌人大伴家持に縁ある放生津八幡宮を参拝する旅である。

当日は曇り空のもと徳高神社を出発し安房トンネルを通り富山へと向かった。車中では神岡鉦山の横を通るため会員の中山隆さんよりノーベル賞受賞小柴昌俊さんがニュートリノの検出に用いたカミオカンデの話や、これから行く八尾の町が富山の葉売りの袋として用いた紙の製造で栄えた事、参拝する放生津八幡宮と大伴家持との話を聞き事前に理解を深めることができた。

八尾に到着するとまず観光協会にて運営される曳山展示館を見学した。五月二日に斎行される曳山祭に出される六町会六台の内三台が常時展示されていた。古くは富山藩の御納戸、近代

には養蚕業にて栄え、絢爛豪華な山車は約五トンで高さ七、五mあり、曳山舞台では演奏を競い夜には提灯を灯し、昼は模様を変えて人形を飾り豪華



である。八尾の人口は今では二万人で多い町会でも百戸、少ない町会は四十戸しかなく、曳くにも維持管理も大変である話を伺い「それは大変だ。」との声も聞かれた。館内には古い車輪が展示されており、寄せ木で作られた様子から「うちの御船の車輪も出来ないかな。」と作り手として見ている姿もあった。

また八尾は九月おわら風の盆踊りで有名でありその様子も映像で見学して、その後はそれぞれ古い町並が整備保存された町内を散策して時間を過ごした。梅雨時で平日のため私達しか観光客の姿も無くゆつくりと見て回った。

昼食を済ますと生憎雨が降り出しその中を新湊に移動しきつとときと市場にて土産や海産物を買ったり海の幸を食べる方もいた。

富山は万葉の里とも言われ大伴家持に縁ある放生津八幡宮では拝殿に上げて頂きその名もなんと大伴泰史宮司様より話を伺った。大伴家持が名呉之浦（新湊）を愛で宇佐八幡宮より勧請したのが創建であり地元の人たちの信仰が篤く、特に漁師や北前船の航路に当たっていたため海上安全の守り神として崇敬された歴史ある神社であるとお話を聞いた。そのため拝殿内には天井絵や絵馬額や奉納額が所狭しと奉納されていた。雨も激しく降り出しゆつくりと境内を回る事が出来なくなってしまうのは残念であった。

今回は生憎雨に見舞われた研修旅行となりましたが参加者



の協力により無事に終える事が出来ました。今後も飾り物制作の参考となり歴史にふれ、会員の親睦を深める旅行を計画して参りますので多くの方々への御参加をお願い致します。

若年層人形講座

この一年間等々力町区、穂高区、穂高町区に於きまして小学生を対象とした穂高人形講座が行われましたのでご報告致します。

等々力町区では牛流教室により鎧兜、着物、刀など説明を受け人形への鎧、着物などの飾り付けや子供達が鎧兜を着用して刀を持ちポーズを決め楽しんでいました。

穂高区田中公民館では保尊教室による勾玉作り制作が行われ、集中して作業に取り組んだ。「いつもの講座で一番楽しかった。」との声がかかれた。

穂高町区公民館では小平教室により人形の手の制作が行われた。針金を芯に藁を巻きそこに紙を糊で巻き付けた指を作った。その後予め教室に於て準備した手の基本となる五本指を付けた材料に子供たちが右手か左手を決め関節を曲げ新聞紙に糊を付け肉付けを行った。始めは糊が手に着くの気にしていたが、夢中になり真剣に作り上げた。子供からは「おもしろい。」「もう少し作りたい。」と話していた。



| 担当 | 日時 | 会場 | 参加者人数 |
|------|-----------|----------|-------|
| 牛流教室 | 平30・12・16 | 等々力町区公民館 | 20人 |
| 保尊教室 | 平31・1・13 | 穂高区田中公民館 | 25人 |
| 小平教室 | 令和元・11・16 | 穂高町区公民館 | 11人 |

穂高駅で迎える穂高人形

観光シーズンを迎える四月十四日小平教室により駅改札前に展示される人形飾りが替えられました。

本年は「楠木正成奮戦す」の場面が飾られ、黒い馬に跨って太刀を振り上げた正成と従う家来が展示されました。

駅をご利用の折りは是非力強い表情を見せる人形をご覧下さい。

また例年穂高南小学校で、児童らに伝統文化を伝える飾り物場面は、昨年より学校事務棟改修工事のため残念ながら展示は行いませんでした。工事が終了する来年度は小学校と協議を持ちまして再開を計画しております。



多くの人達に鑑賞頂いた人形展示

当会の第十回穂高文化協会穂高文化祭展示が穂高神社北神苑にて十月二十八日〜十一月十日の期間展示された。

本年は十回目の展示となり以前より「せっかく作り展示する物だから多くの人達に見てもらいたい。」との話が有り、神社や展示期間中行われる「新そばと食の感謝祭」実行委員会とも話を重ね、多くの参拝者が車を停める北神苑南側に展示会場を移す事となった。

初日の開会セレモニーでは穂高文化協会中村きよ子副会長のご臨席を頂き行われた。

小林会長は「十回目となる文化祭展示を令和元年に場所を北神苑へ移し開催するに当たり、今まで以上に力を入れて制作して頂いた。見やすい場所となったので多くの観光客にも見て頂きたい。」と挨拶した。

各場面説明では保尊教室「因幡の白兔」山田孝さんが「嘘を付いてはいけない事を飾り物で伝えたい。」と話し、また「人形を制作するのに例祭があり、文化祭に掛ける時間が少なく大変であった。」と言われた。

小平教室では「塩尻峠の戦い」嶋田豊實さんより「武田信玄が信濃国を勢力下に置く戦いであったという歴史を知って欲しい。人形を多く飾り臨場感や迫力を出した。」と述べた。



牛流教室では「曾我兄弟の仇討ち」 竹内敏夫さんより曾我兄弟が今まさに屋敷に入ろうとする場面であり、今までと違い鏡兜無しで表現する事に苦勞した。」と述べた。

今回は準備より片付けを含め天候に恵まれた。展示会期間中毎年参拝をして菊花展を見に来られる福祉施設の人からは「いつも菊を見るだけであったが、今回は車いすの人も見られて良かった。」と喜ぶ声がかかれた。

多くの方に見て頂いた十回目の穂高神社境内における人形飾り物の文化祭展示を終える事が出来た。



子供祭・例祭賑やかに御船奉納される

本年の穂高神社子供祭は九月七・八日、例祭は九月二十六・二十七日にそれぞれ斎行された。

子供祭の八日は真夏を思わせる暑さの中の御船曳行であった。例祭では安曇野市友好都市の福岡市東区より山方浩区長を始め自治会長二十五名の一行が参拝され激しい御船のぶつかり合いを見入っていた。

御船祭各区御船飾り物は左記の通り
子供祭

- ・等々力町区 子供船 「明智光秀竹槍に死す」
- ・穂高町区 子供船 「木曾義仲巴御前奮戦」
- ・穂高区 子供船 「矢作橋の日吉丸

蜂須賀小六との出会い」

例祭

- ・等々力町区 子供船 「戦国の世に散る 小岩嶽城」
 - ・穂高町区 子供船 「楠木正成 千早城の戦い」
 - ・穂高区 子供船 「石川五右衛門
- 釜茹での刑に処される」
- ・両町 大人船 「明智左馬助秀満 湖水を渡る」
 - ・穂高区 大人船 「神武東征神話」

着物御寄進御礼

この一年間に人形や御船の飾り物に必要な着物類の寄付をお寄せいただき心より御礼申し上げます。

着物・小物を計三十二点頂き誠に有難うございます。今後有効に使用させて頂きます。

寄付者名は左記の通り。(順不同)

- ・安曇野市 降旗慶子様 ・安曇野市 望月マサコ様
- ・安曇野市 下條清二様 ・安曇野市 小林光男様
- ・安曇野市 匿名

着物・萱類等についての寄付は引き続き事務局穂高神社事務所にて受け付けておりますので、今後もご協力を宜しくお願い致します。